

小樽別院だより

お盆を迎えて

輪番 教重文雄

本年もはや、お盆の季節を迎えま

した。
ふだん忙しい生活をしている人、故郷を離れて都会で働いている人、ひっそり一人で暮している人も、幼なかつた頃に思いをはせ、幼なかつた頃をなつかしみ、お寺やお墓へお参りをする季節でもあります。

お盆は、私たちときりはなせない大切な仏教の行事です。

しかし、そのお盆も、お盆参りとか、盆踊りとか、とうろう流しとか、形だけが残ってしまつて、その心が失なわれてきているように思われま

す。
仏教行事は、どんな行事でも深い

“念仏の声を世界に子や孫に”



朝夕時をつげる

小樽別院鐘堂、境内より

発行所
本願寺小樽別院
小樽市若松1丁目4番17号
〒047 TEL0134-22-0744
編集・発行人
教重文雄

小樽に念仏の
友垣の輪を
ひろめよう

わけがあります。私たちの人生にかかわる大切な意味をもっています。いま一度、お盆の意味をふりかえつて、意義ある一日にしたいものです。

私たちはよく、「毎日の生活が忙がしくて、ゆっくり考えるひまがない」といわれる方が多いのです。それでは、ひまがあれば、ゆっくり考えることができるかというと、そうでもありません。忙しい人ほど考えるゆとりが必要なのです。

ひまな人は、いつでもできるという気持でのんびりしていますから、いつまでたつてもなにもできません。忙しい皆さんですから、意義あるお盆をすごそうと考えることもできるのです。

私たちは、ふつう、お盆お盆と呼びなれています。くわしくいいますと、盂蘭盆会です。インドに始まり、中国をへて、日本に伝えられました。「盂蘭盆経」というお経に、次のようなお話しのついでに、

お釈迦さまには、多くのお弟子さんがおられました。その一人に目蓮尊者という方がいらっしゃいました。毎日、お釈迦さまの教えを聞き、一生懸命に修行に励んでいました。修行というのは、仏になる道を実践していくことです。仏とは、覚者という意味です。覚者とは「めざました方」ということです。真理にめざました、真理を体得したということです。

あるとき、目蓮尊者は、亡きお母さんはどうしておられるであろうか

と心配のあまり、お母さんのことを観察しました。すると、どうでしょう、お母さんは、やせおとろえて、骨と皮になっておられます。お母さんが物を食べようと口まで持っていくと、火になって炎で焼いてしまふ、あわれな姿でした。

目蓮尊者は、悲痛な気持で、お釈迦さまのところに行つて「私の母は、どうなつておられるのですか？」と尋ねますと、お釈迦さまは「あのような状態を餓鬼というのだ」といわれました。目蓮尊者は、どうしてよいのかわかりません。お釈迦さまに相談しました。

お釈迦さまは、そんな苦しみからお母さんを救い出す方法を教えられました。これを盂蘭盆会というのです。つまり、さかさにつるし上げられる苦しみをいいます。盆というのは、そういう苦しみから救い出す方法ということなのです。

どんな方法でしょうか夏に集つて修行をする坊さんの最後の日に、目蓮尊者は、心をこめてご馳走をつくつてお坊さんにさしあげました。その結果、お母さんはさきほどと違って、生き生きとした姿になつて餓鬼道を離れておられました。

これがお盆の始まりだといわれ、中国、日本と仏教が伝わってくるうちに、その国の風習などが加わつて多様に行われるようになりました。宗派によつても違つています。お盆を施餓鬼供養とか棚経などという宗派もあります。餓鬼の世界に苦しんでいる人のため、果物や野菜を供えて追善供養することを施餓鬼といひ、これをお盆のとき行つてお

ます。
しかし、私たち浄土真宗では、施餓鬼や棚経などいたしません。阿彌陀如来のみ教えに生きる私たちは、みんなお浄土に生れてゆくのです。大切なことは、まず、私自身の姿を省りみるということです。それには、私自身が親鸞聖人のすすめられた、阿彌陀如来のみ教えをよく聞くことです。

「歎異抄」に、「いずれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし」といってお言葉をよく味わつてみましょう。「どんなに修行をしても、悟を開くことのできないこの親鸞は、結局、「私の住み家は地獄よりほかにはないのです」といっております。

阿彌陀如来のみ教えを聞けば聞くほど、私自身に気づかされる、人間最底の心をえぐりだし、自分自身の本当の姿をみつめられた言葉です。
私たちは、両親や祖父、いえ、もつともつと遠い人までの汗と涙のなかに、今日生きているのではないのでしょうか。してみると、平常忘れがちで、先祖に対して「おかげさまで、今日も元気で働かせてもらっています」と感謝の念をもつ、それが人間らしい生き方でしょう。

社会の流れが科学万能、物質謳歌を呈している今日。人々は心の支柱を見失ひ、不安と変動の中に生きなければならぬ未法の世に。聖人の仰がれた「念仏のみ教こそ」、私達の人生に、光明と生き抜く力を与えて下さるのです。大事なお盆の仏事を通して今日ある自分の生き方をよく考えましよう。

人生を語る

報恩感謝

—私の歩みと展望—

別院総代 長谷川才一

この度、小樽別院だよりが発刊されることになりましたことは、私も門信徒にとりましては更にその絆が太く、強くなりますことと洵に有難たいこととあります。

さて、口幅つたいことですが、私は常々今日健康で幸せに生活出来ることは先祖の、そしてご因縁の方々、又社会のそれぞれのおかげ様であると考えております、その報恩感謝が信仰であり、念仏であろうと思えます。私を生んで、育ててくれた先祖への感謝、私の周りの関係の方々、そして社会の人々と組織に対して、教えられた感謝、強られた信仰でなく、心から湧き出る感謝、念仏でありたいものと思えます。

幼くして両親を亡くした私は親への思慕の念は人様よりも更に強いものがあります、つい先年亡母の五十回忌の法要も無事つとめさせて頂いたこともその幸せの一つであり、このことが自らの生活面に感謝となり念仏となり、又私の子孫までもこの気持が受継がれることを強く念じております。

これが親に対する子として、又子に対して親として私の生活の理想であり、私の人生の歩みにしたいものです。

合掌

この道三十年

(私は土建屋の三代目)

別院参与 田中修次

私の祖父は田中の姓が示すとおり百姓の出である。この土いじりが大好きな祖父が土木に手を出したのは

儲かりそうだと単純な理由らしい。事実道路や橋など着々と手がけ順調に儲けたという。しかし祖父がカマドを潰してしまふまで時間がかからなかった。一種千金を夢見て石灰山に手を出したのである。祖父は息子(おやじ)にだけは職を身につけさせようと大工に弟子入りさせ、おやじは十年目で独立した。私は土建屋の三代目である。始めた頃は終戦四、五年目だ。資材不足に悩まされた。朝鮮動乱では儲けた。三十八年頃の不況では損をした。その後好景気、高度成長、今はしばらく我慢の時代である。不況である。いつの時代でも波がある。人間は一にも二にも勉強しだい建築屋は一生勉強だというのがおやじの残した、たったひとつの遺言である。

子供と共に

別院アソカ会会長 宮本みい

小樽別院仏教婦人会に正式に入会致しましたのは昭和二十四年、主人の母が亡くなった年です。当時別院の婦人会の中心になっておりました方は若松さんのおばあちゃんでした。お寺の行事のあるたびに誘いに来て下さいましたので断わり切れずお寺に出入りするようになりました。

三十四年頃には若妻会、以来アソカ会と称し今日に到っております。私事になりますが、三十一年に主人が急に亡くなりました。その時程人生の無常を感じた事はありません。四人の子供達と残された私は一才になる子供の顔を見ては泣いたものです。それから良いにつけ悪いにつけ、お念仏様を力に日々暮らさせていただいております。幸い主人の兄弟、周りの良い方々に恵まれて子供達も社会人になりました。これも皆御念仏様と

御先祖様のお陰様と念仏相続させていただいております。

合掌

昭和五十五年
本願寺小樽別院
一般会計歳計決算報告

歳出			
款項目	決算額	予算額	説明
1 法要費	7,993,012	7,850,000	莊嚴ヒ、法物ヒ、法要ヒ、法要 降誕會、兩彼岸會、盆會、報恩講、他
2 教化費	2,606,008	2,870,000	常例布教、特別布教、門信徒教化ヒ 壯年、婦人、青年、少年、文書、視聴覚費、その他
3 事務費	45,417,798	44,660,000	人件ヒ、消耗ヒ、水道光熱ヒ、脂ヒ、通信・交通ヒ、諸ヒ、他
4 会議費	290,028	400,000	総代会5回他
5 維持費	10,418,945	10,720,000	管轄ヒ、備品ヒ、負担金、諸税ヒ、他
6 積立費	1,150,000	1,150,000	退職、その他
7 予備費	1,070,414	1,100,000	全国仏青大会、その他
合計	68,946,205	68,750,000	

歳入			
款項目	決算額	予算額	説明
1 懇志	39,626,022	39,250,000	降誕會、盆會 報恩講、彼岸會、葬儀、月忌、年忌 祥月、永代経、他
2 回金	3,000,000	3,000,000	別除会計より
3 本山交付金	3,691,308	3,700,000	伝灯奉告、他
4 維持費	7,845,250	7,500,000	維持費
5 冥加金	7,979,200	7,300,000	別院會館使用料、他
6 雑収入	1,021,999	1,000,000	預金利息、他
7 前年度繰越金	6,969,769	7,000,000	
合計	70,133,548	68,750,000	

歳入合計七〇、一三三、五四八円
歳出合計六八、九四六、二〇五円
差引剰余 一、一八七、三四三円
但し次年度繰越し

総合結婚式場・御法要会場

秋の結婚式

のご予約をお待ち致しております。

小樽
公園通り

豊楽 ☎(代)23-6171

支店…レストランニュー豊楽☎(代)23-7561
外商部…各種慶弔料理・出張料理一切

活動中



世の中は今日ほかに

なかりけり

昨日は過ぎつつ

明日は来たらす

別院 総参拝 百日参拝

好調な

スタートを切る

別院では、去る七月一日から朝参りの拡大と充実を目指して、ご門徒各位に、月に一〜二回は必ず別院への参拝を願ひ、合せて宗祖聖人のご生涯を偲んでいただく意味も含めて百日参拝を企画しました。

開催の初日は五十六名の方々が参拝をなされ、お正信偈を共に唱和し、ご文章、輪番の挨拶と法話を聞いて約一時間にわたった朝参りを終え、朝の六時三十分開始頃は未だバスの運行なく、三十分余もかかって歩いて来た方も何人かおられた様



です。ご本山の朝参りは六時始りですので別院も明年から六時にと考慮しております。

尚、毎日続けております百日参拝去る二十五日現在、二十五名の方々が左記の通り連続して参拝されております。十月八日が百日目にあたります。お身体に留意をしてお参拝下さい。また連続されなくてもよろしいのですから一回でも多くお参りをしたいと、共に聞法のご縁を深めることを念じております。

◆百日参拝者氏名(連続参拝者)

七月一日〜二十五日

宮本	みい	辻	初江
嶋田	アイ子	秦	賢治
有田	フミ	牧	ツルヨ
白浜	千代	佐々木	アキ
加藤	福恵	風間	毅
佐野	スエ	見楚谷	光子
三浦	スエ	見楚谷	スエキエ
渡辺	カノ	北飯	ヨネ
滝沢	ハル	佃	キク
長井	イノ	大久保	繁
渡辺	テル	倉田	アヤ子
野坂	房市	小南	ます
若松	まさ	他	三十余名

緑説教所「無量講」五十年

無量講 稲 健治

緑説教所の縁起につきまして申し上げます。すでに半世紀も前の事で御座いまして当時の方々に於いては野作太郎さんの御話受給りですと公園の下古筈川周辺にはかなり人家が密集して運搬屋さん水車に依る精米所海産物加工業者がありまして別院に御詣りするにしても今と違いました道路が悪く今のバスも無く大変に困難であった様です。そこで門徒の方々が相談されまして説教所の設立が持ち上り男の方々前田清一さんの祖父の作次郎さん、佐野作太郎商店二代前の佐野喜平さん等が土地の確保建築に努力せられた様です。同時に婦人部の方々はもっぱら内陳の寄進なさった様です。同時に無量講も設立され去る昭和五十三年十月に、高柳参勤殿が、在勤中に創立五十周年記念法要報恩講が盛大に執行されました。私は幸いにして二十年間も毎月の講中、御詣りをさせて戴き佛恩の有難さと先人の残された偉大な徳に感謝の念忘れる事なく又後人へ残す責任の重大さを感じるものがあります。 合掌

― 仏婦活動 ―

別院仏婦では去る六月下旬江差別院を始め道南めぐりの参拝旅行を実施したが、七月二十二日俱知安町の東林寺にて、道中央ブロック仏婦研修大会の開催に会長以下三十名の会員が別院からバスにて参加した。

― 仏壮活動 ―

毎月六日の夜、例会を開催している。全国的に仏壮活動が活発化している現況に鑑み、中央において新たな展開を目指して仏壮規約が改定された、別院仏壮においても新たな規約の制定と新しい状況に対処すべく会活動の展開が望まれる、関係者において現在協議が行われている。

な展開を目指して仏壮規約が改定された、別院仏壮においても新たな規約の制定と新しい状況に対処すべく会活動の展開が望まれる、関係者において現在協議が行われている。

頑張っています

小樽別院副輪番 高越静真



学業終了後、京都の本山に四ヶ年勤務、その後、南米開教使としてブラジルに十ヶ年活躍、去る二年前の七月、当別院の副輪番として赴任した、以来、去る三月、前輪番の急逝にあい、輪番欠員という困難な状況の中によく、職員、ご門徒を統率して、諸問題の解決にあたった。

これも、本人のもつ、誠実で謙虚な人柄と思う、合せて多趣味、行動派でもある。本年三十七歳の若さ、今後の活動に期待が大きい、家庭は愛妻との間に三名のお子たちがいる。

小樽幼稚園主任、本間美智子



伝統ある幼稚園の現場の責任者として、毎日先生方をまとめながら、自分もクラスを担

当して保育に専念している。幼稚園きつてのキャリアをもつだけに園児の把握と保育には、無理のない柔軟な姿勢が感じられる。

趣味は料理、菓子作り他多く、特技も二十二年のマイカー運転歴、着物の着付けは指導者の腕前をもって今も精進中……。

エース

A

新型

期日指定定期預金

預金のエース登場

北陸銀行

小樽支店
奥沢支店

- 5つの魅力 ●
- ① 1年複利で高利回り。
 - ② 期日指定で引出し自由
 - ③ 一部引き出しOK
 - ④ 優 専用預金
 - ⑤ お預け入れ期間は最長 3年



日々に新鮮
日々に向上
日々に浄化

あなたとの対話

ここに聞きたい

明日の人生をめざして

担当 教重文雄

◆ 宗教なしに立派に生活している人があるのに、
どうして信仰が必要なのでしょう。

答、立派に生きていけば信仰はいらない、という質問のようですが、これは、法律や倫理道德を守って他人に迷惑をかけずに行動すれば、それでよいという考え方でしよう。しかし、よく考えてみると人間は善いことと知りながら善いことができず、悪いことと知りながらも悪を犯さずにはおられない存在です。

以外の道はありません。人間としてのまことの道を生きぬくためには、どうしても信仰が必要なのです。

また、宗教は、単に「立派」に生きるための手段ではなく、「真実」を求め「真実」に生きようとする人の大切なよりどころです。

自分だけのしあわせを求めて、かなわぬ願いを追いかけて生きている私を呼びさまして、「真実」の世界に導かずにはおかないという、阿弥陀如来の願に目覚まさせていただくのです。そのときに、「この如来さまのお心のうちにこそ、私の願うべきことがあったのだ」と味わわれてくるのです。

正しい信仰生活こそ、み仏と共に生きるという尊い生き方をさせていただくことができるのです。

別院ぐい門徒えのお知らせ

- 一、お盆について
 - 1、お盆会法要参拝ご案内
 - とき 八月十五、十六日 午後一時三十分より
 - ところ 別院本堂
 - 法話 本願寺布教使
 - 2、お盆参り
 - 一 別院からご門徒宅へ
 - イ、八月十二日から十六日までの五日間にわたってお参りします。
 - ロ、納骨堂参りは、毎年昼前後が混雑しておりますので、朝か夕方に参加方を協力願います。
 - 尚、必ず受付に申し出てお参り下さい。(八時～十時まで)
 - 3、お盆の心得
 - お仏壇をきれいに掃除して美しくお花を供えましょう。
 - お盆中に家族そろって必ずお寺に参詣して、法話を聞きましょう。
 - 知人、恩師をたずねて礼儀をつくしましょう。
 - 出来るだけ殺生をつつしみましょう。
 - 初盆のお家はとくに、お寺にお参りをして(お盆の法要)亡き人を偲んで法話を聞いて下さい。
 - 恒例の行事案内
 - 1、総参拝(毎月一日、十六日の二日) 百日朝参り実施中。
 - 二、どなたでも気がなるにお参り下さい。毎月十五、十六日 宗祖月忌。
 - 2、定例法座
 - 毎月六日～十六日まで、ただし十二日はお休み、ご本山直属の布教使による法話が行われております。
 - 7、各説教所法座
 - 緑説教所、毎月八日午後七時から、
 - 奥沢説教所、毎月五日、十日に開座
 - 若竹説教所、毎月七日、午後七時から
 - 新光説教所、毎月十三日午後七時、以上
 - 8、日旺佛教講座
 - 一 現代をさわやかに生きよう
 - 九月第一、第三日曜午前九時三十分
 - 後記
 - 別院の新たな行事として七月一日から「総参拝」と朝参り「百日参拝」を始めた最初の一日は五十教名の参拝があり以後四十四、五名の人が続日お参りをしていく。不安な暗いニュースの多い社会に手を合すことの大切さを一人でも多く知っていただきたい。
 - 平和のシンボル鳩の糞害をのぞこうと仏士の奉仕で鐘堂に鳩が入らぬように綱をはってもらった、おかげで糞害は除かれ、感謝にたえない。いまひとつ本堂の糞害場所高く広く、頭が痛くなる。名案?。
 - 別院だよりも二号の発行にこぎつけた、年間予算に限度があるので広告掲載となった。三号は十月の「報恩講」を中心に編集予定。各位のご意見を聞かせて下さい。

葬儀・供花・霊柩・御遺体搬送の御用命は

小樽典礼(株)

電話(代) 27-1801 イナホ3~4~1

昼夜を問わずお伺い致します。